



令和元年度(2019.1 ~ 2020.3)

---

日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト  
(NipCAプロジェクト)

Nippon-Foundation Central Asia-Japan Human Resource  
Development Project

---

事業報告書(概要)

筑波大学

# 令和元年度(2019.1～2020.3) 「日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト(NipCA)」 活動概要

筑波大学は、大学の世界展開力強化事業「ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム」(2014.3～2019.3)の教育レガシーの一部を継承・発展させた新しいグローバル人材育成事業として、公益財団法人日本財団から教育・研究助成を受け、2019年1月から「日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト」(以下、NipCAプロジェクト)を開始しました。

本事業は、日本財団、日本・中央アジア友好協会(JACAF)、筑波大学の三者が協力・連携し、中央アジア(アゼルバイジャンを含む6カ国)地域の「持続可能な開発目標SDGs」の達成と当該地域社会の課題解決に貢献できる人材を育成することを目的としたものです。初年度は、本学NipCAプロジェクト運営委員会(委員長:清水諭副学長・理事【教育担当】、副委員長:ベントン キャロライン副学長・理事【国際担当】、副委員長:原晃副学長・理事【医療担当】、附属病院長)で承認を受けた事業計画に基づき、大学執行部の助言と指導の下、実務責任者1名(教授)、実務副責任者2名(教授)、プロジェクト専従助教1名、コーディネーター1名(University International Administrator)、研究員3名、事務スタッフ2名で実務・運営を行いました。なお、大学院等の教育活動においては、人文社会系専任教員6名(教授3名、准教授1名、助教2名)から本プロジェクトに係る教育・研究上の支援を受けました。

活動内容としては、①日本財団、JACAF、筑波大同窓生ネットワーク連携活動、②中央アジア・日本の双方向の教育・研究交流、③中央アジアに関係する国内外のネットワーク強化や公開シンポジウム等による教育・研究成果の社会への還元を目指した基盤構築活動の3つをプロジェクトの柱として展開しました。

具体的には、2019年10月に筑波大学大学院人文社会科学部国際地域研究専攻の正規学生として中央アジア及びアゼルバイジャン出身の7名(その内1名は家庭の事情により2020年1月に退学)の優秀な留学生を受け入れました。これらの留学生全員に対して、NipCAプロジェクトのフェロシップ生として、渡航費、学費、寮費、生活費が支給され、安心して学位取得のための勉学に打ち込める環境が用意されています。

フェロシップ生たちは、大学院の「中央ユーラシアSDGs演習」科目の一環として、国内外のSDGsの実践的な取り組みや課題を学ぶために、国連大学、琉球大学、沖縄JICA事務所などを訪問し、知見を広げました。さらに「日本企業インターンシップ」科目では北海道のニセコ経済圏の地元企業などを見学し、新しい形の観光産業の歴史と現状を学びました。こうした活動経験は、フェロシップ生たちの研究テーマの掘り下げに大きく寄与しています。来年3月にフェロシップ生たち全員が学位(修士/国際公共政策)を取得し、将来、中央アジア諸国・地域の各界のリーダーとして社会課題解決に資する有為の人材になることが期待されます。

12月24日には、本学ベントン・キャロライン副学長他6名の教職員と日本財団からの奨学金に支えられて勉学に励んでいるNipCAフェロースhip生7名が、笹川陽平日本財団会長を表敬訪問しました。NipCAフェロースhip生は勉学を支援していただいている日本財団への感謝の思いを直接お伝えするとともに、笹川会長からは「将来、立派になって、日本と中央アジアのために活躍できるよう、しっかり研究に励んでください」との温かい激励の言葉を頂戴いたしました。

また、筑波大学の日本人学生15名によるキルギスでの「海外プロジェクト研修」(9月)や14名の学生が参加したカザフスタンでのロシア語研修(3月)を行うなど、日本と中央アジア双方向の教育活動を実施しました。

さらに、筑波大学内外での留学フェアや研修・留学報告会をはじめとして、5月からの公開講演会シリーズ「中央ユーラシアと日本の未来」開催(計10回)、2020年1月からの海外から中央アジア研究分野のトップリサーチャーを招いた講演会「現代シルクロード研究連続講演会」(計4回)を開催しました。12月にはカザフスタン大使館との共催で、同国の核実験廃止を訴えるカザフ映画上映会を企画・運営しました。

広報活動としては、ニューズレター『中央アジアと日本』の1号、2号を刊行しました。本プロジェクトのホームページ(<https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp>)も立ち上げ、広報活動の基盤づくり(多言語化:英語、ロシア語、中央アジアの諸言語)を行っています。

本年2月から3月にかけては、新型コロナウイルス感染症の影響で、遺憾ながら多くのイベントが中止を余儀なくされましたが、そのかわりに本プロジェクトをさらに充実・強化する目的で、NipCAプロジェクトSDGs資料室(兼小会議室)を整備・開設しました。現在、フェロースhip生たちが同資料室を活用しています。

初年度は、新型コロナウイルス感染拡大というまったく予期せぬ事態に遭遇したが、その影響を受けた一部の活動を除いて、年次計画の目標を達成し、十分な成果をあげることができました。

令和2年6月24日

筑波大学人文社会系教授・CEGLOC長  
ロシア・中央アジア地域責任者  
NipCAプロジェクト実務責任者

白山 利信

## 「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト(NipCA)」 2019年度活動計画および活動実績

項 目	活動計画	活動内容
NipCA プロジェクト 開始 (1月)	2019年1月から「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA)」を開始する。	大学の世界展開力強化事業（ロシア）筑波大学「ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム」の最終年度を迎え、その自走化・継続化の一部を担う事業として、公益財団法人日本財団から教育・研究助成を受け、2019年1月から「日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA)」を開始した。
筑波大学定例 記者会見 (1月)		<p>プレスリリース：<a href="http://www.tsukuba.ac.jp/news/n201901241500.html">http://www.tsukuba.ac.jp/news/n201901241500.html</a></p> <p>開催日：2019年1月24日（木）</p> <p>場 所：筑波大学本部棟8階</p> <p>内 容：筑波大学の定例記者会見において、ベントン・キャロライン副学長・理事（国際担当）と白山利信人文社会系教授・プロジェクト実務責任者が「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト」の開始について記者団の前で概要を説明し、プレスリリースを行った。記者会見に出席した日本財団プロジェクトマネージャーのハフマン・ジェイムズ氏並びにヴルボスキ京子日本・中央アジア友好協会会長からスピーチがあり、その後、永田恭介学長よりより笹川陽平日本財団会長に対する謝辞が述べられた。プレスリリースの概要は、筑波大学ホームページで公表された。</p> <p>日本経済新聞でも取り上げられた。 <a href="https://www.nikkei.com/article/DGXMZO40576900Y9A120C1L60000">https://www.nikkei.com/article/DGXMZO40576900Y9A120C1L60000</a></p>
国際学会参加 (3月～8月)	NipCA プロジェクトに関わる本学人文社会系中央ユーラシア研究ユニットの教員・院生に対して、研究推進を後押しする目的で、国際学会参加への支援を行う。また、本プロジェクトに直接寄与する中央ユーラシアの研究者に対しても可能な範囲で支援する。発表時のプレゼン資料に日本財団の研究助成を受けている旨を必ず明記する。	<p>①会議名：JACAFA Conference “21st Century Education Dynamic Symbiosis between Education and Industry”</p> <p>発表者：宗野ふもと（人文社会系特任研究員）</p> <p>題 目：Handicraft Making and Women’s Empowerment: A Case Study on Uzbekistan</p> <p>日 時：2019年3月1日（金）</p> <p>場 所：アゼルバイジャン共和国バクー Holiday Inn Baku</p> <p>②会議名：The 1st SDGs Research Workshop on the Nippon Foundation Central Asia-Japan Human Resources Development Project</p> <p>発表者：Prof. Grigoriy Mun, Head of Department of chemistry and technology of organic substances, natural compounds and polymers, Al-Farabi Kazakh National University ほか3名講演</p>

項 目	活動計画	活動内容
		<p>題 目：Development of solar energy conversion systems in the framework of the Kazakhstan “green energy” development concept  日 時：2019年3月26日（火）  場 所：筑波大学中図書館集会室</p> <p>③会議名：第14回国際ロシア語ロシア文学会世界大会  発表者：Elena Tsygalnitsky（人文社会系助教）、松下聖（人文社会系助教）、白山利信（人文社会系教授）  題 目：ロシア語圏諸国における「やさしいロシア語」の教育と普及について  日 時：2019年4月29日（月）～5月3日（金）  場 所：カザフスタン共和国ユーラシア国立大学</p> <p>④会議名：European Society for Central Asian Studies Conference  発表者・発表題目：人文社会科学研究科国際日本研究専攻博士後期課程4名（中央アジア出身）、Nafissa Insebayeva “New Approaches to International Cooperation in Asia: The Case of Kazakhstani Official Development Assistance”, Mariam Bibilashvili “Small States in a Globalised World: Georgian Perspective”, Syinat Sultanalieva “Feminas as a self-colonising practice? Analyzing feminist narratives on the role of women in Kyrgyzstan”, Zhanar Sekerbayeva “Role of Medical Specialists in Negotiating “Normalization” of Transgender People in Kazakhstan”  日 時：2019年6月27日（木）～29日（土）  場 所：イギリスエクセター University of Exeter</p> <p>⑤会議名：Bam-e Dunya Khunjerab Festival &amp; Expanding cultural corridors through Silk Route music treasures  発表者：Shirali Gulomaliev（人文社会系非常勤研究員）  題 目：Language and music of the Wakhi people  日 時：2019年7月28日（日）  場 所：パキスタン・イスラム共和国 Karakorum International University</p> <p>⑥会議名：2nd World Congress on Humanities and Social Sciences  発表者：Elena Tsygalnitsky（人文社会系助教）  題 目：Towards New Paradigms of Society 5.0: Japan Promoting Employment of Foreign Students  日 時：2019年10月25日（金）  場 所：スペイン王国 Olympia Hotel, Events &amp; Spa</p>



項目	活動計画	活動内容
運営体制の維持・継続 (4月～3月)	学位取得を目的する正規留学生の受入業務という新しいミッションを持ったNipCAプロジェクトを軌道に乗せ、事業を安定的に推進し、本プロジェクト運営を確実なものにするために、前年度と同程度以上の教職員数の雇用を進める。	① 2019年4月より University International Coordinator を1名(広報・企画・運営等担当)、非常勤研究員を2名(中央ユーラシア留学生学務・生活支援担当、中央ユーラシア海外研修・海外インターンシップ等国際交流実務支援担当)、非常勤事務職員(会計担当)を1名雇用した。 ② 2019年8月より本プログラム担当専任助教を1名採用した(SDGs 関連科目、インターンシップ科目等の教育業務、プロジェクト全体の企画・運営の推進等)。 ③ 2019年8月より、業務の拡大とニーズへの対応を踏まえ、非常勤研究員をさらに1名(HP・ニュースレター英文翻訳・編集担当)増員した。 ④ 2019年10月より、総務的な業務の拡大に対応するために、非常勤事務職員(総務担当)を雇用した。 ⑤ 2人目のプロジェクト教員(准教授)の採用のための選考手続きを行った。
海外研修・留学報告会 (4月～10月)	NipCAプロジェクトの学内周知と学生へのモチベーション付与を兼ねて、海外研修および留学報告会を開催する。	① 2019年4月～7月各学群主催フレッシュマンセミナーにて海外研修と留学情報を提供した。 ② 2019年4月22日(月)海外医療視察研修報告会を4A222にて行った。 ③ 2019年5月17日(金)海外研修・交換留学帰国報告会をスチューデントコモンズにて行った。 ④ 2019年10月30日(水)海外研修帰国報告会を大学会館にて行った。
公開講演会 (5月～2月)	本事業の広い意味での地域社会貢献と、NipCAプロジェクトのフェロシップのみならず、学内の教職員、学外の研究者・学生たちへの問題意識の喚起を促す目的で、中央ユーラシア地域と日本が抱える社会的な課題や地球規模的課題に係るテーマで、有識者による公開講演会を実施する。筑波大学SGU事業の一環として実施。	「日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト」主催連続公開講演会「中央ユーラシアと日本の未来」を10回開催。中央アジアの留学生を中心に15～50名程度の参加者があった。 ①公開講演会 題 目：カザフスタン共和国の現状と中央アジア諸国との関係 講 師：イエルラン・バウダルベック・コジャタエフ氏(駐日カザフスタン共和国大使館特命全権大使) 日 時：2019年5月21日(火) 場 所：本部棟5階大会議室 ②公開講演会 題 目：タタール世界への誘い：ロシア第2の民族「タタール人」の言語と文化にせまる 講 師：櫻間瑞希氏(筑波大学人文社会科学部国際日本研究専攻院生)

項 目	活動計画	活動内容
		<p>日 時：2019年7月12日（金） 場 所：中央図書館中央集会室</p> <p>③公開講演会 題 目：ロシア語圏諸国の言語と社会－ベラルーシを中心として－ 講 師：清沢紫織氏（JSPS 特別研究員 PD 北海道大学） 日 時：2019年9月13日（金） 場 所：中央図書館中央集会室</p> <p>④公開講演会 題 目：高度外国人材の活躍が企業にもたらすメリットとは 講 師：河野亮広氏 （日本貿易振興機構国際ビジネス人事課） 日 時：2019年9月20日（金） 場 所：桜美林大学新宿キャンパス</p> <p>⑤公開講演会 題 目：日本の観光政策教育と地方自治体の多文化共生ビジョン 講 師：山川和彦氏（麗澤大学教授） 日 時：2019年10月24日（木） 場 所：中央図書館集会室</p> <p>⑥公開講演会 題 目：日本の地域社会の良さを見つける多言語で伝えることの大切さと難しさ 講 師：青木優氏 （株式会社 MATCHA 代表取締役社長） 日 時：2019年11月15日（金） 場 所：本部棟5階大会議室</p> <p>⑦公開講演会 題 目：これからの日本社会における公共サインのあり方と研究の展望 講 師：本田弘之氏 （北陸先端科学技術大学院大学教授） 日 時：2019年12月20日（金） 場 所：桜美林大学新宿キャンパス</p> <p>⑧公開講演会 題 目：Industry 4.0, University 4.0, Faculty 4.0, Students 4.0 —第4次産業革命で激変する社会のリーダーを作る大学教育 講 師：當作靖彦氏 （カリフォルニア大学サンディエゴ校教授） 日 時：2020年2月7日（金） 場 所：中央図書館中央集会室</p>

項 目	活動計画	活動内容
		<p>⑨公開講演会            題 目：1. The Presentation of Faculty of Philosophy and Political Science 2. The Presentation of Research Project “The Role of Symbols in the Modernization of Public Consciousness”            講 師：Prof. Dr. Massalimova Aliya            (カザフ国立大学哲学・政治学部長)            題 目：3. The Presentation of PhD Student’s Research “The Image of a Modern Kazakh Woman Culture Traditions and Social Status”            講 師：Ms. Baskynbayeva Nazym            (カザフ国立大学大学院生)            日 時：2020年2月18日(火)            場 所：中央図書館中央集会室</p> <p>⑩公開講演会            題 目：Scientific Integration Between Universities of Kazakhstan and Japan            講 師：Dr. Sadykov Tlegen            (ユーラシア国立大学歴史学部長)            題 目：Archaeology of the Great Steppes            講 師：Dr. UMITKALIYEV Ulan            (ユーラシア国立大学考古学・民族学部長)            日 時：2020年2月25日(火)            場 所：中央図書館中央集会室</p>
JACAFA 日本研修 プログラム (6月)	NipCA プロジェクトと JACAFA (日本・中央アジア友好協会) と連携・協力し、JACAFA 同窓生のための日本研修プログラムを実施する。プログラムの中に、本学 Ge-NIS プログラム生とのラウンドテーブルや、本学の研究施設等視察の機会を提供した。	開催日：2019年6月24日(月)、25日(火) 訪問先：陽子線医学利用研究センター、国際統合睡眠医科学研究機構 (IIS)、サイバニクス研究センター、エンパワースタジオ、人文社会学系棟 参加者：本学 JACAFA 同窓生 5 名、JACAFA Chairperson ヴルボスキ京子、Ge-NIS プログラム生
国内インターンシップ (7月)	Ge-NIS プログラムの留学生が、関東近郊の企業、教育機関、非営利団体においてインターンシップ体験ができるよう支援する。	開催日：2019年7月18日(木) 活動内容：本学及びアサヒビール茨城工場でインターンシップ体験型学習を実施した。 参加学生数：留学生 15 名 (中央アジアを中心とする CIS 諸国出身の Ge-NIS プログラム留学生)
交換留学生の派遣 (9月)	9月に日本人学生を約1年間、ロシア語圏諸国の協定校へ派遣留学させる。留学中におけるインターンシップ活動等の支援を行う。	開催日：2019年9月～2020年2月 日本人派遣学生：野辺悠介 (比較文化学類3年) 留学先：タジキスタン共和国タジク国立言語大学



項 目	活動計画	活動内容
海外研修 (9月)	在キルギス日本センターと協力して、キルギス共和国の首都ビシュケクを中心に海外視察研修を実施する。	開催日：2019年9月2日(月)～13日(金) 科目名：「海外プロジェクト研修」(2単位) 参加学生数：15名(医療科学1名、工学システム2名、社会工学1名、知識情報1名、生物資源1名、教育1名、国際総合5名、人文1名、比文1名) 訪問先：キルギス共和国日本人材開発センター、在キルギス共和国日本国大使館、在キルギス JICA 事務所ほか
NipCA フェローシップ生 受入 (10月)	筑波大学人文社会科学 研究科国際地域研究専攻 の入試合格者である NipCA フェローシッ プ生7名が入学する。	筑波大学人文社会科学 研究科国際地域研究専攻 に NipCA フェローシッ プ生7名が入学した。フェ ローシップ申請者数は全 182件あった。
交換留学生受入 (10月)	10月より、ロシア語 圏諸国の協定大学から 交換留学生を1年間本 学を受け入れる。	2019年10月より中央 アジア諸国を中心に CIS 諸国から26名の学生を 受け入れている。
留学フェア (10月)	筑波大学グローバルコ モンズ機構主催の留学 フェアに参加し、中央 アジアを中心とする CIS 諸国(ロシア語圏 地域)に関する留学情 報を学生に提供する。	開催日：2019年10月 25日(金) 筑波大学学生会館で行 われたグローバルコモン ズ機構主催の筑波大学 留学フェアに中央アジ アのブースを設けて参 加した。
海外インターン シップ (10月)	Ge-NIS プログラムの 留学生が、中央アジア 諸国の非営利団体や企 業等でインターンシッ プ体験ができるよう支 援する。	開催日：2019年10月 ～2020年1月 インターンシップ先： キルギス・キルギス共 和国日本人材開発セン ター、キルギス NGO 法人グローバルノレッ ジ 参加学生：富樫知聖(生 物学類2年)
広報活動 (10月)	本事業を学内外に広報 するために、ニュース レターおよび専用の ウェブサイトを制作 し、開設する。	「日本財団中央アジア・ 日本人材育成プロジェ クト」のニュースレター 第1号を2019年10月 に、第2号を2020年1 月に刊行した。2019 年12月に「日本財団 中央アジア・日本人材 育成プロジェクト」ウ ェブサイトを開設した。 (日本語・英語・ロシ ア語) <a href="https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp">https://centralasia.jin sha.tsukuba.ac.jp</a>
カザフスタン共 和国前大統領名 誉博士号授与式 (10月)		式典名：カザフスタン 共和国ナザルバエフ・ ヌルスルタン初代大 統領への筑波大学名 誉博士称号授与式 開催日：2019年10 月23日(水) 場 所：東京都内(第 一ホテル東京) 備 考：本学のカザフ 人留学生も参加し、 ナザルバエフ初代大 統領、永田恭介学長 とともに記念撮影を 行った。
SDGs 研修： 沖縄研修 (11月)	国際地域研究専攻開 設科目である「中央 ユーラシア SGD s 演習」に係る教育 活動の一環として 沖縄研修を行う。	開催日：2019年11 月7日(木)～10日 (日) 訪問先：琉球大学熱 帯生物圏研究セン ター、JICA 沖縄、 ひめゆりの塔ほか 引率教員：白山利信 (人文社会系教授)、 相馬拓也(人文社会 系助教) 参加学生： NipCA フェローシッ プ生7名、JICA フェ ローシップ生2名

項目	活動計画	活動内容
SDGs 研修： 北海道研修 (12月)	人文社会科学研究科国際地域研究専攻開設科目である「日本企業インターンシップ」(1単位)の教育活動として実施する。	開催日：2019年12月11日(水)～16日(月) 訪問先：北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター(SRC)、ニセコ町民センター、ニセコ環境株式会社、ニセコワイナリー 参加者数：9名(NipCAフェローシップ7名、JICAフェローシップ2名) 担当教員：白山利信(人文社会系教授)、山川和彦(非常勤講師、麗澤大学教授)
カザフスタン 核実験映画 上映会 (12月)	在日カザフスタン共和国大使館との共催で、冷戦期にカザフスタンで実施された核実験と同国の核実験廃絶政策に関する映画の上映会を行う。	開催日：2019年12月18日(水) 場 所：筑波大学中央図書館中央集会室 上映作品：Where The Wind Brew 参加者数：30名
SDGs 研修： 国連大学研修 (12月)	国際地域研究専攻開設科目である「中央ユーラシアSGDs演習」に係る教育活動の一環として沖縄研修を行う。	開催日：2019年12月20日(金) 訪問先：国連大学 講 師：加藤真理子(UNICEFキルギス事務所)(題目「SDGs4 質の高い教育をみんなに～中央アジア・キルギス共和国における課題と取り組み～」)、国連大学専門家3名(題目「国連のSDGsの取り組み」「地球がかかえる水問題について」他) 参加者数：9名(NipCAフェローシップ7名、JICAフェローシップ2名) 担当教員：白山利信(人文社会系教授)、相馬拓也(人文社会系助教) 参加者：Elena Tsygalnitsky(人文社会系助教)、松下聖(人文社会系助教)、Sabina Insebayeva(人文社会系非常勤研究員)、山崎宏子(NipCAプロジェクト担当コーディネーター)
笹川陽平日本財団 会長を 表敬訪問 (12月)	NipCAプロジェクトのフェローシップ7名とともに、公益財団法人日本財団の笹川陽平会長へのご挨拶とご報告を兼ねて、財団本部を表敬訪問する。	訪問日：2019年12月24日(火) 訪問先：日本財団本部ビル(東京都港区) 参加者：NipCAフェローシップ生7名、ベントン・キャロライン(理事・国際担当副学長)、箕輪真理(国際地域研究専攻長)、白山利信(NipCAプロジェクト実務責任者・人文社会系教授)、相馬拓也(NipCAプロジェクト担当教員・人文社会系助教)、松下聖(人文社会系助教)、山崎宏子(NipCAプロジェクト担当コーディネーター)

項 目	活動計画	活動内容
<p>中央アジア トップ研究者に よる特別連続 公開講演会 (1月～2月)</p>	<p>中央アジアトップ研究者による特別連続公開講演会(1月～2月)海外から世界トップレベルの中央アジア研究者を本学に招聘し、中央アジア各国の国際関係や政治経済に関する連続公開講演会を行う。公開講演会のほか、本学の教職員や学生向けに、論文執筆方法や研究費獲得、研究者のキャリア形成などについて学ぶ研修会を実施する。筑波大学SGU事業の一環として実施。</p>	<p>①特別連続公開講演会 題 目：Central Asian Regional Integration 講 師：Dr. Tolipov Farkhod (Director, Professor, “Bilim Qarvoni” Research Institute, Uzbekistan) 日 時：2020年1月21日(火)、23日(木) 場 所：文科系修士棟 8A409</p> <p>②特別連続公開講演会 題 目：Images and Imagining: Central Asians about Korea and Koreans about Central Asia 講 師：Dr. Shin Boram, Assistant Professor, Hanyang University 講演 日 時：2020年1月28日(火)、30日(木) 場 所：文科系修士棟 8A409</p> <p>③特別連続公開講演会 題 目：The Basmachi Movement: Banditry, Rebellion and the Quest for Power in Central Asia 講 師：Dr. Nourzhanov Kirill (Assistant Professor, Australian National University) 日 時：2020年2月10日(月)、11日(火) 場 所：文科系修士棟 8A409</p> <p>④特別連続公開講演会 題 目：Informality, Informal Governance, Shadow Economy (both at the Theoretical Level and Empirical with Focus on the Post-Soviet Region, Central Asia) 講 師：Dr. Polese Abel, Senior Researcher, Dublin City University 日 時：2020年2月10日(月)、11日(火) 場 所：文科系修士棟 8A409</p>
<p>外部評価委員会 (2月)</p>	<p>Ge-NIS プロジェクトの活動での外部評価の経験を踏まえて、外部評価委員会が本プロジェクトの実施状況を評価するとともに、同委員会と本プロジェクト実務者が改善に向けた協議を行う。</p>	<p>外部評価委員：當作靖彦(カリフォルニア大学サンディエゴ校教授)、小野澤正喜(育英大学教授)、藤谷浩至(国際協力機構東・中央アジア部部长)、富山未来仁(外務省欧州局中央アジア・コーカサス室室長)、村山えりか(つくば市国際交流室室長) 日 時：2020年2月7日(金) 場 所：総合研究棟 A111</p>
<p>海外研修 (2月)</p>	<p>カザフスタン共和国アルファラビ・カザフ国立大学において、春期ロシア語・カザフ語研修を実施する。</p>	<p>海外ロシア語研修 日 時：2020年2月17日(月)～3月14日(月) 科目名：「海外語学研修ロシア語C」(3単位) 場 所：カザフスタン共和国アルファラビ・カザフ国立大学 参加学生数：14名(工学システム3名、知識情報1名、生物資源1名、国際5名、人文3名、社会1名)</p>

項 目	活動計画	活動内容
研究者の受入 (2月)	中央アジア諸国の研究者を短期間受け入れ、教育・研究のネットワークを拡大する。	<p>①筑波大学との協定大学であるカザフスタン共和国アルファラビ・カザフ国立大学の教員と学生を受け入れ、教育・研究交流に関する意見交換、専門家間の学術交流、筑波大学の施設見学等を行った。 来学者：(1)Prof. Massalimova Aliya a (Dean of Philosophy and Political Science Faculty), (2)Ms. Baskynbayeva Nazym (Ph.D Candidate in Cultural Studies) 期間：2020年2月15日(土)～2020年2月22日(土)</p> <p>②筑波大学との協定大学であるカザフスタン共和国ユーラシア国立大学の教員と学生を受け入れ、教育・研究交流に関する意見交換、専門家間の学術交流、筑波大学の施設見学等を行った。 来学者：(1)Prof. Sadykov Tlegen (Dean of Faculty of History), (2)Prof. Umitkaliev Ulan (Head of Department of Archaeology and Ethnology) 期間：2020年2月21日(金)～2020年2月29日(土)</p>
交換留学生派遣 (2月)	2月に日本人学生を約1年間、ロシア語圏諸国の協定校へ派遣留学させる。留学中におけるインターンシップ活動等の支援を行う。	<p><b>*新型コロナウイルス禍により未実施</b> 2020年2月～2021年1月※新型コロナウイルス拡大のため中止 参加学生：中島ももか(人文学類2年) 派遣先：カザフスタン共和国アルファラビ・カザフ国立大学</p>
海外研修 (3月)	<p>① キルギス日本センターでの日本文化イベントの実施補佐、国際協力プロジェクトの補佐、日本文化紹介のセミナー企画・講師といったインターンシップを行う。</p> <p>② カザフスタン共和国アルファラビ・カザフ国立大学とのCiC協定締結を受けて、当該大学において英語によるCLIL授業を体験する。</p>	<p><b>*新型コロナウイルス禍により未実施</b></p> <p>①海外研修(キルギス) 日 時：2020年2月24日(月)～3月10日(火) 場 所：キルギス日本センター 参加学生：3名 科目名：「海外インターンシップ」(2単位)</p> <p>②海外研修(カザフスタン) 日 時：2020年3月15日(日)～21日(土) 場 所：カザフスタン共和国アルファラビ・カザフ国立大学 参加学生：46名 科目名：「海外プロジェクト研修」(2単位)</p> <p>③医学医療視察研修(中央ユーラシア諸国：ロシア、カザフスタン) 日 時：2020年3月19日(木)～28日(土) 場 所：ロシア国立研究医科大学(モスクワ)、ナザルバエフ大学医学部(ヌルスルタン)ほか</p>

項目	活動計画	活動内容
	③ 医学群の学生を対象に、医学医療視察研修を実施し、ロシア（モスクワ）及びカザフスタン（ヌルスルタン・アルマトイ）の医科大学や医療機関、研究機関などを訪問する。	参加学生数：8名（医学類6名、医療科学類1名、看護学類1名） 科目名：医学類「海外プロジェクト概論（ロシア語圏）」（1単位）、医療科学類「国際生命医科学研修1」（1単位）
交換留学生派遣（3月）	3月に日本人学生をロシア語圏の協定校へ派遣留学させる。留学中におけるインターンシップ活動等の支援を行う。	<b>*新型コロナウイルス禍により未実施</b> 期 間：2020年3月～9月 参加学生：川口恵里奈（人文学類2年） 派遣先：カザフスタン共和国アルファラビ・カザフ国立大学カザフ国立大学
カザフ国立大学学生受入（3月）	カザフスタン共和国アルファラビ・カザフ国立大学とのCiC協定締結を受けて、当該大学の学生来日し、本学での日本文化講義や茨城県内および東京都内の企業視察に参加する。	<b>*新型コロナウイルス禍により未実施</b> 期 間：2020年3月22日（日）～26日（木） 場 所：筑波大学、茨城県内企業ほか 参加学生数：32名
中央ユーラシアSDGs国際学術会議（3月）	国内外の中央ユーラシア研究者を招聘し、当該地域の政治経済、社会の現状を分析するとともに、SDGs達成に向けての課題を議論する。	<b>*新型コロナウイルス禍により未実施</b> 会議名：NipCAプロジェクト主催「日本財団中央ユーラシアSDGs研究国際会議」 テーマ：International Perspectives on Sustainable Development Goals in Eurasia 日時：2020年3月30日（月）、31日（火） 場所：日本財団本部国際会議室セッション：1. “Non-state actors, Informal Institutions and Practices”, 2. “Foreign Policy”, 3. “Economic Development and Environmental Sustainability”, 4. “Gender Issues”, 5. “Connectivity, BRI & Regionalism”, 6. “Political transitions, Values and Change”

\* 計画した事業の実施に向けて最後まで準備・調整を行ったが、新型コロナウイルス禍の中、学生及び教職員の生命と健康を守ることを最優先し、事業を中止した。



資料1 令和元年(2019年)度NipCAフェロー（一期生）リスト計6名

氏名	国籍	研究テーマ
Boteu Saltanat ボテウ・サルタナト	カザフスタン	Environmental sustainability practices in Japan, its cultural aspects and applicability
Geldiyeva Mivegozel ゲルディエヴァ・ミヴェゴザル	トルクメニスタン	Energy security issues in Central Asia
Muratbekova Aigerim ムラトベコヴァ・アイゲリム	キルギス	Bullying among children in Japanese schools
Qambarova Nilufar カムバロヴァ・ニルファル	タジキスタン	Freedom and Constraints of the Press in Tajikistan
Aliyeva Tubu アリエヴァ・トゥブ	アゼルバイジャン	A comparative study between Azerbaijan and Japan in order to investigate the role of tourism in economic and environmental sustainability of newly formed states
Zakaryanov Ilyas ザカリヤノフ・イルヤス	カザフスタン	Sustainable development of East Kazakhstan in conditions of regional inequality of the country



## 資料2 令和元年(2019年)度プロジェクト運営委員会委員リスト

敬称略

	役割等	氏名	所属・役職
1	委員長	清水 諭	理事・副学長（教育担当）、グローバル教育院長
2	副委員長	ベントン キャロライン	理事・副学長（国際担当）、グローバル・commons機構長
3	副委員長	原 晃	理事・副学長（医療担当）・附属病院長
4	委員	青木 三郎	大学執行役員・人文社会系長
5	委員	加藤 光保	大学執行役員・医学医療系長
6	委員	西保 岳	大学執行役員・体育系長
7	委員	小川 園子	大学執行役員・人間系長
8	委員	大根田 修	大学執行役員・国際室長
9	委員	田中 健太郎	副理事（国際担当）
10	委員	坪内 孝司	教育企画室長
11	委員	佐藤 稔晃	教育推進部長
12	委員	佐藤 勤	学生部長
13	委員	平松 祐司	附属病院副病院長、同院国際医療センター長、医学医療系教授
14	委員	磐崎 弘貞	グローバルコミュニケーション教育センター長
15	委員	竹中 佳彦	人文社会科学研究科長
16	委員	大塚 章男	ビジネス科学研究科長
17	委員	大倉 浩	人文・文化学群長
18	委員	関根 久雄	社会・国際学群長
19	委員	綾部 早穂	人間学群長
20	委員	中川 昭	体育専門学群長
21	委員	榊 正幸	医学群長
22	委員	田中 誠	医学類長
23	委員	白山 利信	本プロジェクト実務責任者・人文社会系教授
24	委員	小野 正樹	本プロジェクト副実務責任者・人文社会系教授
25	委員	加藤 百合	本プロジェクト副実務責任者・人文社会系教授
26	委員	ダダバエフ テイムール	本プロジェクト協力教員・人文社会系教授
27	委員	横瀬 雅年	国際室担当課長
28	委員	松崎 広好	学生交流課長
29	委員	斉藤 雅彦	人文社会エリア支援室長
30	委員	岡島 隆治	医学医療エリア支援室長
31	委員	関本 啓子	グローバル・commons機構担当課長

## 資料3 令和元年(2019年)度外部評価委員会委員リスト

敬称略

	役職等	氏名	所属・役職
1	委員長	當作 靖彦	カリフォルニア大学 サンディエゴ校 教授
2	副委員長	小野澤 正喜	育英大学 理事・教授
3	委員	藤谷 浩至	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 東・中央アジア部 部長
4	委員	富山 未来仁	外務省欧州局 中央アジア・コーカサス室 室長
5	委員	村山 えりか	つくば市国際交流室 室長

資料4 令和元年(2019年)度中央アジアトップ研究者講演者リスト

敬称略

	氏名	所属・役職	講演テーマ・開催日・場所
1	Tolipov Farkhod	Director, Professor, “Bilim Qarvoni” Research Institute, Uzbekistan	Central Asian Regional Integration (2020年1月20、23日、8A409)
2	Shin Boram	Assistant Professor, Hanyang University	Images and Imagining: Central Asians about Korea and Koreans about Central Asia (2020年1月28、30日、8A409)
3	Nourzhanov Kirill	Assistant Professor, Australian National University	The Basmachi Movement: Banditry, Rebellion, and the Quest for Power in Central Asia (2020年2月10、11日、8A409)
4	Polese Abel	Senior Researcher, Dublin City University	Informality, Informal Governance, Shadow Economy (both at the theoretical level and empirical with focus on the post-Soviet region/ Asia.) (2020年2月10、12日、8A409)

資料5 令和元年(2019年)度 プロジェクト・スタッフリスト

敬称略

運営体制	氏名	職位・役職	役割
プロジェクト実務責任者	白山 利信	人文社会系 教授	全体統括
プロジェクト実務副責任者	小野 正樹	人文社会系 教授	全体統括補佐
プロジェクト実務副責任者	加藤 百合	人文社会系 教授	全体統括補佐
プロジェクト担当教員 ※退職済み(在職期間:令和元年8月16日~令和2年1月31日)	相馬 拓也	人文社会系 助教	プロジェクト推進業務担当
プロジェクト協力教員 ※退職済み(在職期間:平成31年1月1日~令和2年1月31日)	松下 聖	人文社会系 助教	プロジェクトアドバイザー
プロジェクトコーディネーター ※退職済み(在職期間:平成31年4月1日~令和2年3月31日)	山崎 宏子	インターナショナル・アドミニストレーター	広報・企画等担当
実務スタッフ	笹山 啓	非常勤研究員	海外研修・インターンシップ支援担当
実務スタッフ	グロマリエフ・シラリ	非常勤研究員	留学生サポート担当
実務スタッフ	インセバイエヴァ・サビーナ	非常勤研究員	HP・ニューズレター 英文他担当
支援スタッフ	古徳 あき子	非常勤職員	会計担当
支援スタッフ	谷越 祥子	非常勤職員	総務担当

令和元年度 (2019.1 ~ 2020.3)  
日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA プロジェクト)  
Nippon-Foundation Central Asia-Japan Human Resource Development Project  
事業報告書 (概要)

---

2020年12月1日発行

監 修 白山 利信  
編集・校正 梶山 祐治 (主担当)、山本 祐規子、谷越 祥子  
発 行 者 白山 利信  
発 行 所 筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA)」  
茨城県つくば市天王台 1-1-1  
Tel: 029-853-4251  
E-mail: info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp  
Web: <https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/>  
印刷・製本 株式会社アイネクスト

---

Supported by  
  
THE NIPPON  
FOUNDATION



筑波大学  
*University of Tsukuba*

日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト  
(NipCA Project)

〒305-8571 茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学

Tel. 029-853-4251

E-mail: [info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp](mailto:info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp)

Web: <https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/>